

## 小売業の皆様へ

2007年3月「商品識別コード」が国際標準のG T I Nに変わります。

G T I Nの導入によって、貴社の検品システムに支障が生じる場合があります。  
システムの確認をお願いいたします。

詳しくは以下をご覧ください

### Q 1 G T I N (Global Trade Item Number) とは

G T I N (ジーティン) は、現在マチマチの桁数となっている J A Nコード (13桁や8桁) I T Fコード (集合包装用商品コード: 16桁や14桁) U P Cコード (12桁) などを14桁の統一的な体系にまとめたものです。

商品コード	G T I N フォーマット													
	T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>	T <sub>3</sub>	T <sub>4</sub>	T <sub>5</sub>	T <sub>6</sub>	T <sub>7</sub>	T <sub>8</sub>	T <sub>9</sub>	T <sub>10</sub>	T <sub>11</sub>	T <sub>12</sub>	T <sub>13</sub>	T <sub>14</sub>
I T F-14(集合包装用商品コード)	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	N <sub>3</sub>	N <sub>4</sub>	N <sub>5</sub>	N <sub>6</sub>	N <sub>7</sub>	N <sub>8</sub>	N <sub>9</sub>	N <sub>10</sub>	N <sub>11</sub>	N <sub>12</sub>	N <sub>13</sub>	N <sub>14</sub>
U P Cコード (12桁)	0	0	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	N <sub>3</sub>	N <sub>4</sub>	N <sub>5</sub>	N <sub>6</sub>	N <sub>7</sub>	N <sub>8</sub>	N <sub>9</sub>	N <sub>10</sub>	N <sub>11</sub>	N <sub>12</sub>
J A Nコード (13桁)	0	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	N <sub>3</sub>	N <sub>4</sub>	N <sub>5</sub>	N <sub>6</sub>	N <sub>7</sub>	N <sub>8</sub>	N <sub>9</sub>	N <sub>10</sub>	N <sub>11</sub>	N <sub>12</sub>	N <sub>13</sub>
J A Nコード (8桁)	0	0	0	0	0	0	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	N <sub>3</sub>	N <sub>4</sub>	N <sub>5</sub>	N <sub>6</sub>	N <sub>7</sub>	N <sub>8</sub>

14桁に揃えるために左に「0」を詰めます。

バーコードシンボルによる J A Nシンボル13桁、8桁の表示は変わりません。

I T Fシンボル16桁が2010年3月以降、原則として使用できなくなります。

### Q 2 なぜG T I Nを使うのか

G T I Nを導入することにより、何種類もの桁数であった商品識別コードのフォーマット (項目の長さ) が14桁に統一されます。この結果、商品コードを使った流通情報システムの効率化 (企業間データ交換における変換コスト削減など) がグローバルな商取引だけでなく、国内のサプライチェーン全体においても達成されることが期待されます。

### Q 3 G T I N採用で何がかわるのか

商品コードを使っているシステムでは、商品コード項目を14桁に統一設定します。企業間でG T I Nを導入することになると、今まで商品識別コードとして J A Nコードを使っていたシステムでは、商品識別コードにG T I Nを使うこととなります。例えば、企業間のデータ交換 ( E D I = Electronic Data Interchange : 受発注データ、納品データ等) 商品情報のデータベース、商品マスタ管理などのシステムにおいて、「G T I Nを導入、使用する」ことになると、商品識別コードの項目の長さをG T I Nの14桁に設定変更することが必要となります。

G T I N導入に関して、現在対応する必要のある課題は次の通りです。

1. I T Fコード (集合包装用商品コード) の14桁への切り替え

集合包装用商品コードは14桁と16桁があり、わが国では16桁が普及していますが、G T I N採用により、14桁の集合包装用商品コードへ変更する必要があります。



集合包装用商品コード ( I T F 14 シンボル表示)

2. I T Fコード (集合包装用商品コード) の2つの表記方法の容認

集合包装用商品コードについて、従来からある「一致型」に加えて国際標準に準拠した「不一致型」も容認し、両方に対応出来るようにする必要があります。

「一致型」

集合包装用商品コードの商品アイテムコード部分が、集合包装されている単品を表す J A Nコードの商品アイテムコード部分と一致している方式。

現在、わが国で使用されています。

例) メーカーコード7桁、アイテムコード5桁の場合

J A N : 4 9 1 1 2 2 3 0 1 1 2 3 C/D

I T F : n + 4 9 1 1 2 2 3 0 1 1 2 3 C/D

「不一致型」

集合包装用商品コードの商品アイテムコード部分が、集合包装されている単品を表す J A Nコードの商品アイテムコード部分と一致してない方式。

例) メーカーコード7桁、アイテムコード5桁の場合

J A N : 4 9 1 1 2 2 3 0 1 1 2 3 C/D

I T F : 0 + 4 9 1 1 2 2 3 0 1 1 4 5 C/D

I T Fコードから単純に J A Nコードが求められなくなります。

消費者にケース販売・ポール販売する場合は、「不一致型」の採用となります。

3. 国際標準による商品アイテムコードの設定基準の徹底

従来からある商品コードの付番ルール「 J A Nコードの商品アイテムコード付番ルール」に替わり、国際標準に準拠した「 G T I Nアロケーションガイドライン」による付番を徹底することになります。

4. 集合包装 (ポール、ケース) への単品商品 J A Nコード (シンボル) の印刷廃止

現在、単品商品の J A Nコード (シンボル) を集合包装 (ポール (内箱)、ケース (外箱)) に印刷またはラベル表示している場合がありますが、 G T I Nの運用ルールとして廃止され I T F 14シンボルのみが表示されます。07年3月からは、集合包装単位で販売するための J A Nコード (単品 J A Nコードとは異なる) 以外は印刷できなくなります。

ポール(内箱)の J A Nシンボル表記も I T Fシンボル表記に変更となります。

**G T I N導入に関する対応スケジュール**

(財)流通システム開発センター制定

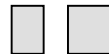
採用開始時期  
2007年3月

移行完了時期  
2010年3月

**1. 集合包装用商品コード (ITFシボル) 16桁から14桁への移行**

14桁への移行完了

(現在、既に一部の商品メーカーによりITFシボル14桁表示が開始されています。)



**16桁、14桁混在期間**

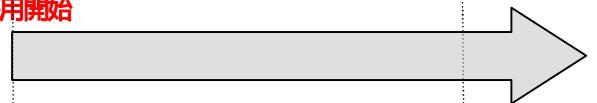
- ・2010年3月から16桁でのメーカー出荷は出来ません。
- ・同一商品での14桁から16桁への逆戻りは出来ません。
- ・ボール(内箱)の単品JANシンボル表記をボール用ITFシンボル表記へ変更(ボール販売は別のJANシンボル表記)

**2. 集合包装用商品コードの「不一致型」採用**

**不一致型採用開始**

(既に、一部海外から輸入される商品には表示されている商品アイテムコード不一致型のわが国での採用。)

- ・2007年3月から一部メーカーで「不一致型」の商品が出荷されます。
- ・入荷・検品システムでの紐付け対応が必要です。
- ・消費者にケース販売・ボール販売する場合は不一致型を採用する



**3. 国際標準準拠のアロケーションルール(付番ルール)徹底**

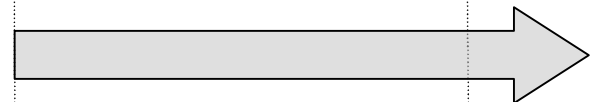
(現在の「商品アイテムコードの付番ルール」について、改めて国際標準準拠のアロケーションルールが採用されます。)  
2010年4月以降は国際標準に準拠した付番ルールのみとなります。

- ・<JANを変える場合>  
表示内容変更、外寸20%以上変更、ボーナスパック、異なる価格
- ・<ITFを変える>  
JAN変更、入数が異なる場合、  
軽微な変更ではITFを変更しなくて良い。



**4. 集合包装への商品コード表示 国際標準の徹底**

取引単位を特定、識別できるよう 全ての取引単位毎に固有のG T I Nを設定 (単品・内箱・ケース・パレット etc)  
(集合包装「ケース・ボール」への単品JAN表示の廃止)



「採用開始時期」とは 上記ルールへの対応がスタートする日(商品メーカーの出荷日)

「移行完了時期」とは 上記ルールへの対応が終了する日(商品メーカーの出荷日)

### 経営者の方へ

流通システムの国際標準への対応は、わが国、国内におけるサプライチェーン全体における効率的な商取引を進める上でも必要とされます。国際標準の商品識別コードであるG T I Nは国内取引においても、流通情報システムの重要な基盤となります。

E D I、受発注システムにおいて、今後G T I Nを採用することにより、コードが統一され、お互いのプライベートコードの変換などの負担が解消し、流通トータルコストが大幅に削減されることが期待されます。

このG T I N導入への対応には、各社において入荷検品システムなどの変更が必要となる場合があります。この場合2007年2月までに変更を完了する必要があります。

### 販売、物流、情報システム、各部門の方へ

- ・企業間データ交換、受発注システムにおいてG T I Nを採用することになると、発注コードはJ A Nコードから14桁のG T I Nへ変更となります。
- ・貴社の物流センターにおいて、I T Fシンボルによる入荷検品を行っている場合、システム内容の確認が必要です。集合包装用商品コードの「不一致型」の受け入れについて、現行のシステムのままでは、入荷検品に支障が生ずる場合があります。
- ・既に、一部メーカーでは、2007年3月からの「集合包装用商品コードの不一致型」の使用を表明しています。
- ・現在、菓子業界で行っているボール上の「単品J A N」表記は、国際運用ルール上問題があり、2007年3月より、[内箱(ボール)I T F]表記に変更されていきます。当面は、「単品J A N アイテム一致型」のI T Fで行いますので、パッケージ・インゲータを無視して、J A Nを認識して下さい。但し、消費者にボール販売する場合は「不一致型」のボールJ A NとボールI T Fを併記することとなります。

### 店長・バイヤーの方へ

- ・2007年3月から、当該商品の商品情報を受け取る際、特に商品コードに係わる正確な情報が必要となります。従来の集合包装商品コードとは異なるコード体系の「不一致型集合包装商品コード」が付番されてくるので、小売業が正確な商品管理を行うためには単品J A Nコードと集合包装用商品コードの関係を事前に入手し、システムへの登録が必要となる場合があります。
- ・既に、一部メーカーでは、2007年3月からの「集合包装用商品コードの不一致型」の使用を表明しています。
- ・2007年3月から、国際標準に準拠した「商品アイテムコードの付番」を徹底することになります。従来から使用されているJ A Nコードの付番とは異なる商品コードが登場するようになります。メーカの付番変更に対応した商品管理を小売業としてもシステム構築しておくことが必要となります。

次の事例に基づき、貴社システムを確認して下さい。

事例1：検品の際、集合包装用商品コードの全桁を認識し、発注時の単品JANとの紐付けが可能となっている場合。この場合はシステム変更は不要です。

事例2：集合包装用商品コードの先頭のPI（パッケージ・インデクサ）を読み飛ばし、単純にJANコードを求め、発注時の単品JANとの照合検品を行っている場合。

**システム変更が必要です**



システム変更対応策の例（対応策の例として参考にして下さい）

・入荷検品 対応例1

上記事例1の仕組みへ変更。

・入荷検品 対応例2

現行の読み飛ばす仕組みを継続するのであれば、メカ、卸売業から不一致型に関する商品情報を事前に入手し、例えば、既存の商品マスターとは別に紐付け可能なテーブルを作成し、発注時の商品コードと入荷時の商品コードを照合検品できる仕組みを作る。

これ以外にも、例えばスキャナの仕組みなどについても確認が必要です。

（ITF14桁と16桁、JANの読み取りが可能であるか）

GTINに対応した、次世代EDIが現在、検討されています。

**ご注意下さい**

GTINが導入されても、店頭のPOSシステムがスキャンする商品上のバーコードシンボル（JANシンボル13桁，8桁の表示）は変わりません。

e-お菓子ねっと運営委員会は、1988年より、全国菓子卸商業組合連合会、全日本菓子協会の体制で設立されました。設立以来、業界VANを中心として、卸売業とメーカー間の流通の効率化・情報化の推進を軸に、課題の検討・推進を目指して、サプライチェーン全体の流通、物流の効率化を目指した活動を行っています。

本パンフレットの内容についてのお問い合わせなどは

e-お菓子ねっと運営委員会 事務局 全日本菓子協会内  
TEL：03-3431-3115 FAX：03-3432-1660 E-mail：[anka\\_0@nifty.com](mailto:anka_0@nifty.com)

GTINについての詳しい解説資料は e-お菓子ねっと (<http://www.eokashi.net>)  
または、財)流通システム開発センターのホームページ (<http://www.dsri.jp>) で、  
ご覧になれます。

注)このパンフレット作成にあたり財)流通システム開発センターのホームページを参照しました。